科目ナンバリング			
授業科目名 <英訳>	学生支援からみた大学生活論 Campus Life and Student Support	担当者所属 職名・氏名	学生総合支援機構 准教授　中川　純子 学生総合支援機構 准教授　村田　淳 学生総合支援機構 特定准教授 松尾　寛子 学生総合支援機構 特定助教 中藤　信哉

群	健康・スポーツ科目群	分野(分類)	健康・スポーツ科学(発展)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

充実した大学生活を送りづらい自分や他者を発見したとき、私たちはどう考え、行動したら良いのだろうか。悪循環を避け、多少なりともよりよい人間関係を築き、社会に働きかけていくため、学生支援の現場から浮き彫りにされる学生生活の多様な課題を提示・検討したい。学生生活への実際的な示唆をなるべく含んだ講義を行いたい。

[到達目標]

日常の大学生活に起きるさまざまな体験や困難さに向き合い、主観的にも客観的にもとらえてみる視点をもてるようになり、自身や他者、社会への理解を深める。

大学生なりの自立した生活を構築していくとともに、それが困難な場合、援助を適切な対象に求めることができるようになる。また、他者との関係性や適切な支援のあり方も考慮できるようになる。

[授業計画と内容]

4人の講師によるリレー講義。それぞれの講師の興味・経験・個性を背景として、提示したテーマに沿った講義を行う。全体でアカデミックカレンダーを超えない範囲で、各テーマにつき3〜4回程度の講義を行う予定。各講師のテーマと、そこに含まれるサブテーマは以下の通り。

1（中藤）他者との関係を考える(3〜4回)

大学生活においては様々な他者と関係を構築することになる。青年期以降の自己の形成に他者との関係がどのような意味を持つのか、また実際に他者と関係を構築する上でどのような視点が重要となるのか心理学的に考察する。

2（村田）障害を問い、多様性を考える（3〜4回）

社会には多様な個が存在する。大学生活をおくることも、その社会のなかでの出来事である。多くの個性が交わる大学という時間と空間から、障害という切り口により、他者、そして、自己の尊重を考える。

3（中川）キャンパス・ハラスメントを考える(3〜4回)

大学の日常生活の延長でキャンパス・ハラスメントに遭う、あるいはしてしまう可能性をネット、エロス、パワーの局面で心理的に考察する。

4（松尾）キャリアパスと就職活動(3〜4回)

就職活動をテーマに、自分自身のキャリアパスを考え、プランニングする。受験とは違う選考場面や新卒採用制度への理解を通して、一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮し、いきいきと働く社会について考える。

学生支援からみた大学生活論(2)へ続く↓↓↓

学生支援からみた大学生活論(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

各講師毎に課す小レポート計４回。４回中３回以上の提出を必要条件とする。4回の評価の平均を基本として総合的に判断する。
課題に真剣に向き合っていることが伝わる表現ができているレポートは、高評価になりうる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義中に紹介する参考書は、決して全部とは言わないが、興味を持たれたものについてぜひ読んでみることをお勧めする。

[その他（オフィスアワー等）]

受講希望者が多数の場合、教室収容定員に合わせて受講制限を行う場合がある。